

洞爺湖エリアのエコミュージアム

火山との平和的共存

このページの大きな写真をご覧ください。この恐ろしい噴火は 1977 年に起こったばかりです。その被害が湖岸の町のどれほど近くまで迫ったかが見て取れるでしょう。別の噴火が 2000 年に起こり、誰も正確に予測することはできませんが、今後も確実に噴火は起こります。一体誰が、ましてや町全体が、活火山のこんなにもすぐ側で生活することを選ぶのでしょうか？この質問は不思議なものではありませんが、洞爺湖町の答えは間違いなく珍しいものです。一方では、火山は脅威ですが、管理できるものです。他方では、有珠山は奪った分と同じだけをしっかりと返してくれます。1910 年の噴火後に現れた 2 つの新しい温泉がその良い例です。これらの温泉は現在では洞爺湖温泉と壮瞥温泉という、この地に観光客を呼び寄せる主な名所となりました。ただし、洞爺湖町が自分たちの置かれた状況に気付かないふりをしているわけではありません（直訳は『洞爺湖町が全てを否定しているわけではありません。』）。町は土木工学の力を借りたり、学校やその他の重要な施設をより安全な場所に移したりするなど、災害防止に積極的に取り組んでいます。洞爺湖町と同様に、近隣の町も住民や観光客に有珠山の噴火の歴史、活動、将来の展望について教えています。

地元の人々はこの地域全体がエコミュージアムであることを認識しています。つまり、火山活動の正と負の影響をじかに学ぶユニークな機会を提供してくれる「自然博物館」です。洞爺湖の側に暮らし働く人たちは、この地を訪れる人々に自然の力を恐れるのではなく敬う術を教え、そして自分たち自身はその善悪両面において自然と調和して生活する最善の方法を身に付けていきたいと考えています。